

出張報告書

2024 年 4 月 1 日

所 属	職 名	氏 名
口腔顎顔面外科学講座	講 師	吉田 秀児
出張目的	顔面運動に関するモーションキャプチャーシステムの有用性の検討 と顔面筋の特徴に関する解析および教育デバイスの開発	
出張地	アミアン・ピカルディ大学病院 センター 顎顔面外科 Institut Faire Faces (研究所)	時 期 2023 年 4 月 1 日 出発 2024 年 3 月 31 日 帰着

報 告 事 項

この度、2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの 1 年間、フランス共和国（以下フランス）北部のアミアン・ピカルディ大学病院センター顎顔面外科（Maxillofacial Surgery, CHU Amiens-Picardie）およびその研究施設である Institut Faire Faces へ長期海外出張をさせていただきましたので報告致します。

私が出張したアミアンピカルディ大学病院センター（以下、CHU Amiens-Picardie）は、この地域の臨床、教育、研究を担う総合施設です。1つの大学で運営しておらず、地域のいくつかの大学で運営されています。私が研究でお世話になった Institut Faire Faces も CHU Amiens-Picardie、様々な大学と公共機関からの協力で設立した財団施設になります。

この CHU Amiens-Picardie は、三次救急医療機関でこの地域の医療の中核を担い、とても大きな医療施設です。私の所属した顎顔面外科は、世界で初めて顔面移植を成功させた Prof. Bernard Devauchelle を中心として様々な手術、特に口腔顎顔面領域の再建手術を多く行っていました。手術は、月曜日から金曜日すべての日で行われており、1週間で 20 件ほどの治療が行われていました。顎顔面の再建がほとんどですが、口腔内の手術も行っており非常にバリエーションに富んだ手術を見学することができました。特に再建手術は種類が多く、自分のアイデアを刺激するととても良い機会となりました。また、学生は積極的に臨床参加し、学生の自立性、自己主張性が日本より高く、大学教育でどのように学生との距離をとるかを改めて考えさせられました。

一方研究は、CHU Amiens-Picardie の敷地内にある Institut Faire Faces にて、Prof. Dakpé とともに、顔面のモーションキャプチャーによる筋運動についての研究と、CHU Amiens-Picardie が所有する学生向けシミュレーションセンターである SimUSante における新規歯学部生向けプラットフォームの立案を共同して行いました。研究はチームごとで様々な研究を行っており、我々医師はアイデアを出して、毎週行う会議で研究員と共有するという体制でした。具体的な研究内容は、モーションキャプチャーによる上唇から鼻周囲にかけた筋の動きと特徴に関する解析を行いました。様々な解析の結果、筋の走行や運動に民族による違いがある可能性があり、今後も継続して共同研究を行うこととなりました。これに関連して研究員の方々の協力で出張中に scoping review として論文をまとめ、*International Journal of Oral & Maxillofacial Surgery* に投稿することができました（現在審査中）。教育研究で利用した SimUSante という施設は、東京歯科大学でいうスキルラボと同等の位置づけですが、規模が桁違いで多くのシミュレーターが多くあり、学生の興味をそそらせる施設で我々が見習う点が多かったです。また、プラットフォームの立案と運用が簡素化されており、我々が目指す環境で参考になりました。この教育研究についても共同してプロジェクトを進めていくこととなりました。

最後になりますが、このような機会の許可を下された、井出吉信理事長、一戸達也学長、片倉朗副学長、山本仁副学長、松井淳一副学長、新谷誠康国際交流部長、高野正行客員教授に感謝を申し上げます。加えて、私の不在中に様々なサポートをしていただきました口腔顎顔面外科学講座および口腔病態外科学講座の医局員、看護師、歯科衛生士、受付のスタッフにも感謝致します。今後もこの経験を生かした活動を大学で行っていく所存であります。